

特
SPECIAL
集

思いを力に

ちから



災害発生から、2カ月が過ぎようとしていきます。

この間、復興を願う多くのボランティアの方が駆け付け、救護物資・義援金が届けられるとともに、添えられた励ましメッセージが、復興への力になっています。

多くのあたたかいお気持ち、本当にありがとうございます。

広がる支援の輪

01 災害ボランティアの受け入れ体制をいち早く整える

庄原市社会福祉協議会は、災害ボランティアセンター本部を立ち上げ、市内外から多くのボランティアの方々を受け入れるなど、被災者支援に取り組まれました。

「大変なことが起っていると」

一報は、当日の夕方6時半ごろ市から入りました。

間もなく問い合わせが入り始めた中、夜7時ごろから救護物資を避難所などに届ける作業を始めました。

毛布やタオル、石鹸などの日常生活セットや安眠セットが詰まった赤字の救護物資を夜11時ごろまで届けて回りました。翌日も、朝6時から夜10時くらいまで救護物資を届けました。

上田 正之 さん

庄原市社会福祉協議会 総合センター長



595人のボランティアが駆けつける

災 害ボランティアセンターを立ち上げたのが17日でした。その日の午後から広島県社協ボランティアセンターと連絡を取り合い、翌18日からボランティアの方に被災地へ入っていただきました。

ボランティアは延べ595人(8月8日現在)に上りました。救護要請のあった33世帯に向かい、家屋内の泥や流木などを運び出す作業を行いました。私たち職員も日替わりで一緒に作業を行いました。

被災者の方に元気をもらおう

業を行いました。阪神淡路大震災などの被災経験のある県外の方からも声を掛けていただきました。遠くから手弁当でも駆け付けたいという言葉に、本当にありがたく思いました。

少 しずつでも何とかしてあげたい」という思いで作業に駆けつけました。

ボランティアを受けた被災者の声

五島 崇夫 さん



西城町大戸にある妻の姉夫婦宅が土砂や流木による浸水被害に遭いました。幸いに2人も無事でしたが、家も周辺もひどい状況でした。姉夫婦は高齢で、避難所にいたこともあり、その日動くことができた私が災害ボランティアをお願いしました。7月27日から8月3日までをお願いました。7月27日から8月3日まで、たくさんの方に作業を行っていただきました。被災した当初、あまりのひどい状況に姉夫婦は家を出て行くことも考えたようですが、こんなに短時間で復旧してもらえるととは思わず、ほっとしたようです。本当に多くの方に来ていただき、また親身になって作業にあたっていただき、本当にありがとうございます。



空家のため手付かずになっている隣家の状況



30度を超える猛暑の中で作業を行うボランティアの方たち

普段の暮らしの支援を進めたい

8 月5日に災害ボランティアセンターは一旦閉じましたが、以降通常のボランティアセンターで継続して支援体制をとっています。

一段落した今は日常生活への支援が必要になります。今後は、独居の方や高齢者の方たちを中心とした日常生活支援を市や地元振興区と連携して取り組みたいと思います。

思いを力に。

当初の計画としては、西城川の三次

延べ191人が作業に従事

今回のボランティアは、平成18年の豪雪の際、除雪のボランティアに庄原市へ行ったのがきっかけです。当時、各家の軒先へ案内してもらいながら作業を行いました。今回は、庄原市災害対策本部からも要請があり、国土交通省三次河川国道事務所とも相談して、作業を行いました。とにかくものすごい被害状況で涙が出そうになりました。何とかしたいという強い思いにかられました。

きっかけは豪雪ボランティア



尾道松江線建設工事
安全対策協議会 会長

しも かげ まさとし
下隠 公俊 さん

尾道松江線工事請負業者が被災地で流木などの撤去作業にあたり、復興に向け大きな力を発揮しました。

03 土木業者が流木などの撤去作業で復旧支援

急ぎよ、支援体制を整えるため、5班編成による災害・被災者支援対策本部を設置し、具体的な支援活動を進めていく方針を定めました。翌日早朝にはスタッフのほとんどがセンターに

災害被災者支援対策本部設置へ

その中でも特に意を注いできたのが広報部による活動です。月に2回自治振興区だよりを発行していますが、それぞれの自治会で起きた出来事などの情報を区民の皆さんにしっかりと伝え、小さなことでも取り上げ情報を共有していくことで一体感が生まれ、振興区の活動の活性化につながっています。

日ごろの活動が支援活動の成果に

北自治振興区は、自治振興センターが拠点となり、自分たちでできることはみんなできていこうという住民自治の本質を基に「みんなで暮らす地域」として求められるものは何か。そのためには地域をよく見て共に考え話し合っ

信じられない光景

16日の夕方からの雨はとにかく凄まじかった。信じられないような光景・情報に、地獄に落ち入るような思いでした。被災された方々にどのような言葉をお掛けすればいいのか、絶句しました。



北自治振興区 区長

すみだ てつや
住田 鉄也 さん

集結し、被災者に対する支援体制が整いました。

02 地元自治振興区が被災者を支援

被災地である川北町、西城町、川西町の地元自治振興区では、被災者の方へ心の通った支援活動を行っています。建物被害が大きく、未だ多くの方が避難生活をされている北自治振興区では、災害・被災者支援対策本部を設置し、被災者支援に取り組みされました。

ろう」を合言葉に対策本部へ移行し活動を展開することができたのだと思います。

献身的な支援スタッフに感謝

女性が給食班の中心となり、毎日三食の炊き出しを行ってくれました。ボランティアの方、地域の庄原同人病院の職員の方も駆けつけていただき、避難所や被災家庭の方々のところなどに、食事を配達してくださいました。被災された方々の健康を案じ、栄養士の方がメニューを考え、趣向を凝らしながら、被災された方々への思いに少しでも応えられるようみんな献身的に頑張っていたきました。

こうした各班によるみんなの動き、頑張りの営みすべてが組織活動として実を結んでいることに、スタッフの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

補完的役割を担いたい

災害・被災者支援対策本部は編成を解き、現在は振興区の既存の組織で対応しています。防災防犯部を中心にそれぞれの部も引き続き支援活動を行っていくことにしています。

これからは、被災者の方々に思いをはせ、心の支えとしてお役に立つことが私たちの役目だと思っています。それには地域の力が欠かせません。みんな

「がんばれ庄原」被災地へメッセージ

私たちは普段、尾道松江線の工事にあたっています。工事区間が庄原市を通る区間があることもあり、いつも住民の皆さんに迷惑を掛けているので工事業者としてできるだけ協力をしたいという思いでした。

どうしてボランティアをするのかと聞かれることがありますが、現地を見て、とにかく何か力になりたいという気持ちでした。

作業を終え、地元の人には大変喜んでいただきましたが、実際には大した作業をしたわけではありません。私たちはとにかく「がんばれ庄原」と庄原市民を応援する思いでいっぱいです。

復興を願って

とは言いながら、ボランティアというのは正直しんどい部分もあります。しかし、作業を終えて事務所まで帰ってきて解散するときには、作業にあたった一人ひとりがやり切ったという達成感から、清々しい表情をしていたのが印象的でした。特に若い人が頑張ってくれましたし、地域の方々から感謝され、わずかでも庄原市民の皆さんの力になれたことが本当にうれしかったです。一日も早い復興を心から願っています。



がんばれ庄原!ステッカーを貼り作業にあたる



被災者に手づくりの豆腐などを届ける北自治振興区のメンバー

なの思いをしっかりとつないで元気を生み出す地域づくりを心がけることが重要だと思っています。行政にしかできない部分は行政でしっかりやっていただき、そのためには、私たちが被災者と行政との中間的・補完的役割を担いたいと思っています。被災者の方々の思いや願いを行政に伝えていきたい。行政と地域とがともに一体となって被災者の方々の支援していくことが何より大切です。自らの思いを共に出し合い、共に考え、協力しながら支え合った地域をつくる。その力がこれまでの取り組みで着実に育まれてきています。感じています。これが他の地域でも広がり、その連携が生まれることでどのような難局にも屈せず乗り越えることができる「まち」になることを願っています。

Thank you for a message

災害義援金や 救援物資が 日本中から届く

日本全国から、多くの義援金と救援物資が届き、その中には被災地や被災者に宛てた心温まる応援メッセージが添えられています。その一部をご紹介します。

この度の災害、何と申してよいかわからないほど心が痛みます。どれだけ涙を流され、苦悩の中にいらっしゃるでしょう。何もできず申し訳ありません。皆さまの健康と幸せを願っております。一日も早く笑顔になりますように。私の作っている石けんです。アロマオイルの香りや石けんの使い心地で少しでもお力になれば幸いです。

大分県佐伯市 女性

連日の猛暑で身も心もクタクタになられているのではないかとと思うと何かせざるにいられません。焼け石に水かも知れませんがお役に立ててください。

広島市 女性

どうぞ元気を出して頑張ってください。昨夜第1回高原ファミリーコンサートを開催し、50人の参加でしたが皆さん気持ちよく募金に協力してくださいました。

神石高原町 女性

予期せぬ大事にさぞお疲れ多いことと思います。小さな小さな門前市、老幼の集まりをお届けします。遠くで案じている者がたくさん居ることを励みに、良い時々が戻れますようお祈りします。

埼玉県川口市 西田会

テレビで家を流された方が身ひとつで命が助かったとおっしゃっているのを見ました。暑い中着替えもなくご不自由とと思いますので取り急ぎ衣類を送らせていただきます。お役に立てるとうれしく存じます。

東京都 女性

歴史上まれな集中豪雨で大惨事と聞いております。どうか一日も早く、復興ができますことを祈念しております。庄原市内で生まれ、庄原格致高校の卒業生として募金させていただきます。

東京庄原格致会役員有志一同

私も西城川で産湯をつかった者です。大変心を痛めております。昭和46年には実家も水没し、田畑がダメになりました。しかし人はコツコツと立ち上がり、再生を必ず成し遂げます。どうぞお体にご自愛くださいませ。

広島市 女性

このたびのこと、自然の力とはいえ悲しみに耐えません。自然の猛威に負けないまちづくりを願っています。着古したものを失礼とは存じましたが、ほんの急場しのぎに使っていただけたら幸いに存じます。

東京都練馬区 女性

梅雨明け宣言ですが、ニュースを見るたびに大雨被害が報道され、改めて自然災害の恐ろしさを見せつけられました。被害に遭われた方に心からお見舞い申し上げます。取り急ぎ些少ですが災害義援金をお送りさせていただきます。

岡山県倉敷市 男性

先日の豪雨災害で皆さま大変な思いをされていらっしゃると思います。中には身ひとつで逃げ出された方もいらっしゃると知り、何かお役に立てないかと我が家の日用品のストックを詰めました。すべて新品ですので困っていらっしゃる方に使っていただけませんかでしょうか。お手数ですがよろしくお願いします。

兵庫県尼崎市 女性



全国から市役所市民ホールに寄せられた多くの善意



復興へ向けて

一瞬のうちに起こる災害。今回の庄原を襲った災害は、豪雨が引き金です。局地的なゲリラ豪雨は、いつどこで起こるか予測ができません。しかし、何もせずに災害から身を守ることはできません。常に防災を意識し、常日頃からの準備、万が一の備えがとても重要になってきます。

今回の災害における体制や被災者支援などの対応、また、二次災害防止や今後の復旧に向けた取り組みなどを、清水孝清主幹に聞きました。

大変な豪雨災害でした

7月16日の夕方、4〜5時頃四方の狭い範囲へ、短時間のうちに観測史上に残る記録的な豪雨が発生し、あらゆるものに甚大な被害をもたらしました。

残念ながら1人の方が亡くなられ、多くの方が家屋や家財、田んぼや畑など、財産を一瞬のうちに失ってしまいました。

災害対策本部を設置しました

市は、16日に災害対策本部を立ち上げ、少ない情報を集めながら被災地・被災者への支援体制をとりました。これまで経験したことのない

現在の復旧状況は？

い大きな災害で、判断に迷う部分が多々ありましたが、他の機関とも協議しながら行方不明者の捜索活動をはじめ、被災地や避難所での救援、本部と現地との連絡調整など対応にあたりました。

現在は、災害対策本部を災害復旧対策本部に移行し、復興へ向けた取り組みを進めています。

被

災現場では、河川や道路の仮復旧、家屋の清掃や片付けなど復旧へ向けて進んでいます。

しかし、全壊の家屋や水田などへ広がった土砂・流木の処理については、まだ手付かずのところが多く残っています。生活の再建については、被災

復興に向けた今後の対策は？

前の場所に家を建て直すのか、別の場所へ再建するのか判断が難しい方がおられます。水田などの復旧についても、農機具などの流失により耕作手段を失った農家もあり、今後の大きな課題になっていきます。

特に川北町篠堂地区では、集落全体が土石流と流木で覆われているため、復興へ向けての方向性も見えていないのが現状です。

また被災地全体で、家屋の全壊などにより、多くの方々が自宅に帰ることができず、市営住宅などで避難生活を送っておられます。

山

の表層をえぐりとられたため跡が300箇所を超えています。

山肌が露出しているところや地盤が弱くなっている箇所、水流の妨げになっている箇所など、二次災害が起きる恐れのあるところがいくつもありません。

市民のみなさんへ

復旧を目指し進めていきます。

今

回の災害は、庄原市でも一部の地域に集中しています。同じ市内でも雨が降らず、どこか遠くの場所でも起きてくる出来事のように感じられたかもしれません。しかし、今回のようなゲリラ豪雨はいつどこで発生するかわかりません。防災対策・災害対策に必要なことは、もしかすると明日わが身に降りかかるかもしれないという心構えです。いざというときのために最低限の持ち出し品を準備しておくなど、日ごろの備えが極めて重

要です。自分の地域の避難所がどこなのかを事前に確認し、そこにたどり着くまでの経路や危険物の有無なども実際に通って調べておくことが自分の身を助けることにつながります。

また、お住まいの地域などで災害避難訓練を実施されるなど、地域での取り組みが災害時の対応に効果を発揮することももちろん、防災意識の向上にも役立つと思います。

市としても、今回の災害対応で見えた課題を検証するとともに、組織体制や職員間の連携などより高い実効性を追求していきます。

あとがき

災害に強いまちとは、まちの施設や環境が安全で快適に整備されていることと同時に、地域の人々が助け合える（共助できる）関係が構築されていることが不可欠と言われます。

今回の豪雨災害で感じたことは、自然災害の恐ろしさと同時に「人の温かさ」でした。全国からの一つ一つの温かい気持ちはもちろんですが、何とかしたい、被災者のためにできるだけのことはしてあげたい、というその思いを強く感じることができました。困つ



総務課 庄原市災害対策本部 清水 孝清 主幹

